

# 群馬県 グループホーム高山の家 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	御家族になり代わり職員一同、利用者に対してやすらぎと温もり溢れるホームであるように心がけ、サービスをしています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	御家族の気持になって、安全、安心な日常生活が毎日提供できるように努めています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議等で御家族、地域住民の代表者や行政の委員の方々との交流の中で伝えていきます。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	同村の住民による踊りの慰問や音楽演奏などでお付き合いができました。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同村の利用者が少なく、地域活動などの行事になかなか参加する機会がないが交流を図りたい。	○ 同村の住民のボランティア受入れや営業活動をして多くの住民の方々に当ホームの存在を広めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	福祉施設利用の相談や紹介を出来る範囲で行なっています。例えば、空室が出たときはすぐに同村の居宅支援事業所へ情報を提供しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	評価を受けることで、自分たちが見落としていた事の発見をひとつひとつすぐに改善できることからしています。(前回の音の問題、時計のことなど)		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進会議ごとに、議題を明記して話し合いをしています。		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	受付窓口への訪問や電話で近況報告をしています。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	お一人が現在利用されていますので、後見人者との連絡係としての役割をしています。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	マニュアルを見やすい場所に設置したり、互いに注意を払い防止に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に出来る限り、御家族や利用者の不安を取り除き、ホームで出来ることと出来ないことを説明して、契約を結んでいます。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者として、利用者からの不満や御家族からの苦情に対して速やかに出来ることから対処しています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康状態は月2回の訪問受診、年1回の健康診断、異常時の外来受診で健康管理をしています。金銭管理は数名の方をしていますが毎月預金通帳のコピーをお送りしています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部者への苦情申し立て方法を掲示板に掲示し、訪問の際には出来る限り、お話を聞くように心掛けています。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月2回の会議があり、その際管理者として意見や提案を発表しています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務表も職員が担当を決めて作成し、勤務変更もお互いに話し合いをしながら、利用者に対してサービス低下にならないようにしています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>余り異動はしていないが、時々グループ内の職員研修で顔なじみになった職員を異動するようにし、管理者は出来るかぎり固定化している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政や民間の研修案内を利用して、管理者、職員が順番に研修を受けられるようにしています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		○ 今年度は同業者のレベルアップ研修に参加願いをしてみました。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の懇親会を時々したり、新年会、忘年会、社員旅行、ボーリング大会などを行っています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	担当役員を置いて、管理者や職員のことを把握し、常に向上心をもって働いていけるように努めています。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時、ご本人からの訴えは殆どないので、御家族や身内の方から情報を収集して、ご本人が困っていることを把握した上でご本人と話をするようにしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時からご家族の環境、不安などを傾聴して当ホームで出来ること、協力していけることなどをお話して、利用していただくように努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームの体制と同グループの事業内容を説明し、その時に必要なサービスが受けられるようにしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人の状態を見て、席の配置、お部屋の位置など配慮して、ご本人が溶け込みやすいようにしています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のご家族のつもりで介護をするようにしています。時には、兄弟姉妹のようになって話をして日々過ごすように努めています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と御家族の関係を把握することで、両者を少しでも支援していけるように、協力をいただけるように努めています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	出来る限り、御両者の関係がより良い関係を持って、お互いが安心して日々過ごしていけるようにしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも、訪問でき、好きなだけお話していけるような場所を提供しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者がお互いに話をしたり、同じような趣味が出来そうな方々同士で席を一緒にしたり、コミュニケーションがうまく取れないテーブルには職員が関って利用者の和が取れるようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了しても、ボランティア活動の依頼をしたりして継続しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の方の普段の様子をくみとり、今何をしてほしいのかをさぐり、援助をおこなっている。また、出来る限り本人の希望に努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴をお伺いし、それを参考にご本人が暮らしやすく、落ち着いた生活環境を継続できるように心がける。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、経過記録簿を記入して、その日その日の心身状態や健康状態を見守り、バイタルチェック(AM・PM)を2回測定し、記録管理をして出来る限り職員全体で把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人や家族の要望を取り入れ、職員間でも処遇会議や担当者会議で本人に無理のないような介護計画に努めています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3、6ヶ月でモニタリングを行い見直しを行っています。特変があったり認知症の進行が見られたりした場合は、ご家族にも連絡をとって、本人に応じた介護計画に変更をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録簿に日々の状況を記入し、朝礼の際、申し送りや申し送りノートを通じて利用者の情報を共有をし、問題点等も話し合っって介護の見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空き室が出来たときは、同村内の支援事業所と連絡を取り合っってショートステイの利用をして頂いています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	隣接市町村のボランティアの演奏、おどり慰問、看護学生の慰問、研修、消防の救命講習依頼などを通じた支援に心がけています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者からの希望がなかなか聞こえてこないため、他のサービスの利用は提供していない。	○	今後、利用者から希望が聞かれた際は出来ることは対応していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	事業内容が異なるため、今までは協働する事があまりなかったのですが、今後施設利用をされる方のためにも定期的に情報交換をしていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	高齢な利用者が多いため、月2回の訪問受診で健康管理をしています。年1回の健康診断や異変時には適切な医療が受けられる協力病院があります。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>開所以来から同じ医師の受診を受け、認知の進行状況を見守り、治療をうけられるように日々の状況を医師に伝えていきます。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>施設に看護職員が配置されているため、利用者のちょっとした変化に対して相談でき、病気の早期発見、早期対応が出来ている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>連携している病院があり、病状の安定と改善が見られ次第、早期退院を病院関係者と情報交換しています。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した利用者に対しては前もって家族と話し合い、その情報を医師に報告して、医師からも家族の気持ちを確認していただき、方針を職員全員が共有している。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>利用者の状態を医師に報告し、指示を伺いながら出来ることは、最大限に行う。その際、チーム一貫したサービスを提供している。</p>		
<p>49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族や本人に関わるケア関係者間で、十分な話し合いと情報交換を行って、ダメージの軽減に努める。</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に、尊厳を意識した、姿勢、態度、言葉使いを心がけた対応をしています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	事実とは、異なる会話でも否定せず、受容して聞くよう、対応している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の生活歴、特性、趣味、特技などを考慮し、特性を活かしたサービスを個々に提供している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人の生活歴に合った服装やおしゃれの援助をしている。訪問理容で本人の望みが出来るように店にお願いしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に利用者が出来ることを一緒にしています。例えば食事の後片付けなど。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の好みを買物に行く、家族の面会時に持参していただける様に連絡をいれる。その他10時、15時のお茶の際に工夫をしたおやつを提供している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンを把握し、それにあったトイレ誘導を心がけている。また、定期外にも訴えがあった際には、その都度行う。パット使用者に対しては随時汚染していれば交換を行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前に利用者の健康状態を確認し、本人にも入浴の希望をとってから入浴をして頂いています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間徘徊が見られる方に対しては、見守りや会話をして気分転換を図ったり、トイレ誘導や入床を促し、安心して眠れるように、しばらく様子観察をする。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器の洗い、片付け、テーブル拭きなどの軽作業を一緒にしていただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品やおやつを買いに出かけたり、趣味である宝くじの購入で満足感を味わって頂く。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に応じて、ドライブや散歩を楽しんで頂いています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節を感じていただけるように「お花見」や「紅葉狩り」など行い、クリスマス会では地域の公共施設を利用して家族やボランティア、別ホームとの合同クリスマスで交流を支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話のある場所まで誘導して、家族との電話を楽しめるようにしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来館時、面会者と利用者が、落ち着いて会話が楽しめる場所を提供して、来館を歓迎しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険が予想される時のみサークルを使用していますが、継続的にはせず、危険が解消されしだい中止しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はもとより、居室の鍵はかけず、自由に出入りできるように、拘束感を感じさせないケアをおこなっている。又、利用者が中鍵が出来るようになっているので、鍵をかけた場合は様子観察はしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーの配慮、所在確認、様子観察を24時間体制で取り組み安全に配慮している。夜間は定時に巡視し安否確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人に応じた安全確保のための取り組みを全員で心がけています。持参したものは使用していただき、危険と思われるものに関してはホームで預からせていただくこともあります。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ラジオ体操、手足の体操などの軽い筋力運動を毎日取り入れし、嚥下の能力に合わせた食事形態を提供、配薬の際、声を出して名前と薬を確認する 徘徊者については所在確認と見守りをして、職員が厨房から離れる時は、火元の消火をし施錠をして離れる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署を連携して、定期的に救急救命講習をお願いしてAEDの取り扱いなどを勉強しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防隊員の現地講習を依頼して、避難訓練方法を隣接の看護学生と一緒に勉強して、いつでも協力できる体制に努めています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状態によって、起こり得るリスクを家族と話し合っておく、又その時の状態を随時報告し、利用者には負担にならないような対策を職員全体で心がけています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	午前、午後と定時間に測定し、記録簿に記入管理をしています。記録簿は利用者の健康状態が記入しやすく、見やすい場所に置き情報を共有して、体調変化の早期発見の心がけています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をファイルに整理して、職員がいつでも見られるようにして、個々の利用者の薬の目的や副作用、用法、用量について各自が理解し、服用による変化があれば医師へ報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	普段の食事メニューには繊維が多く含まれた食材を取り入れたり、水分が多く含まれた果物、ゼリー等もメニューに定期的に取り入れ、食事間には軽いウォーキングをして腸の運動に役立っています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、入れ歯の洗浄、はみがき、うがいなどの声かけ、見守りをして介助が必要な方は、洗面所までの誘導と本人ができないところは介助をして清潔を保ち、夜間帯は洗浄液に入れて衛生を保っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食サービス日課表に記入し、摂取量が少ない方には果物や補助栄養食品を提供しています。水分については毎食汁物とお茶を提供し、10時、3時のお茶とご本人の訴えや様子観察をしてその都度水分を取って頂いています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	日常的に手すり、ベットサークル等の消毒を行い、加湿器の中にはCFW液を混入し空気感染を予防している。食事前、外出時には、必ず手洗い、うがいを施行し経口感染を予防し、時期に応じては、予防接種をしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、ふきん等はその都度塩素系漂白剤を使用して消毒し、調理の際は手洗いを欠かさず、調理済みの物には直接、手触れないように使い捨て手袋をして衛生管理に努めています。食材に対しては、低温の食材庫で管理しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりには、花を植え、ベンチを設けて花を見たり、外気浴に利用したり、コミュニケーションの場として多様に利用しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に入居者と共に作製した季節ごとの作品を飾り、切り花、鉢物を置き、季節を感じていただけるようにいたします。利用者の方々が覚えていそうな音楽を流したり、共用部分の温度設定にも気をつけています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内には何ヶ所もテーブルや椅子を置き、利用者の方々が好きな場所でくつろげるようにしてあります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、レクで作った作品などを飾りつけ、ご本人が落ち着けるような環境を心がけ、協力をしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の居室の清掃と換気を行い、その日の気温や天候によって、快適に過ごせるように温度調整をこまめに行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室等には手すりをつけ身体機能を活かし、活動が出来るように職員の見守りと援助で安全を確保して安心して残存能力が活かせるように環境づくりを心がけています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人の認知の程度を把握し、職員全体で同じケアをして混乱や戸惑い、失敗しない環境を作り、本人が出来ることを活かして暮らしていけるように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、いちごや畑には野菜を植え、収穫を楽しみ、おやつに皆で食べて新鮮な食感を味わう		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の
		②利用者の2/3くらいの
		③利用者の1/3くらいの
		④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある
		②数日に1回程度ある
		③たまにある
		④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と
		②家族の2/3くらいと
		③家族の1/3くらいと
		④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・四季折々の材料を使い、メニューに反映させた料理を提供し又、誕生会や定期的な行事の際は、普段余り食べていないような食材を用意して提供しています。
- ・レクの充実と地域ボランティアの慰問活動の受入れ、隣接町の楽器演奏会、民謡踊りなどを同グループの介護施設利用者たちと共に楽しんでいます。
- ・納涼祭やクリスマス会は特に公共施設を借り切って踊り、吹奏楽団を招き、利用者のご家族、職員全員でゲームしたり、飲んだり食べたりして楽しい1日を過ごしています。